府中・四谷の様子(四谷小学校ができるまで)

					江戸時代	<u> </u>							年号
1752 (宝曆2)	1742 (寛保2)	1739 (元文4)	1707 (宝永4)	1627 (寛永4)	1600 (慶長5)	1352	1345	1333 (元弘3)	1192 (建久3)	1062 (康平4)	741	645	年
	多摩川大洪水。	川崎平右衛門がむさしの新田の世話役になっ	宝永山ができた。 富士山が噴火し大きな被害がでた。		してさかえた。 江戸幕府が甲州街道をひらき、府中が宿場と	足利尊氏が人見原・金井原でたたかった。	足利尊氏が高安寺をたてた。	た。この時むさし国分寺が焼けた。 分倍河原で新田義貞と幕府の軍がたたかっ	の宿駅として考えられた。鎌倉に幕府が置かれ、府中が鎌倉街道	えたと言われる。 源頼義・義家が大國魂神社にけやき千本をう	国分寺市に「むさし国分寺」がたてられた。	「むさし国府」が置かれた。	府中市の様子
横場の地蔵尊たてられる。 日新小の商人が病で倒れたのを村民が助け、電子・(今の四谷公会堂の裏手にあった。今に四谷小の校章に私な一大の恩返しに三十八本というのはを植えた。 で治るまで世話した。その後商人は甲州に帰り、四ツ屋村民がいるの態で、数十五年のの度に私業が使われたり、校章の正、私、大口三百四十余名。 として残され、 表面 というのに、 というのに、 というのは、 というのに、 というのは、 というのに、 というのは、 というのに、 というのに、 というのに、 というのに、 というのに、 というのに、 というに、 をを中心にした。 をいたことが、 というに、 とい	り。 四ツ屋村の始まりは今の仲見世や美喜店あた四ツ屋村の始まりは今の仲見世や美喜店あた四半屋が流された。		たところに四谷の人々は暮らしていた。ど前。古い多摩川と新しい多摩川にはさまれらの多摩川に決まったのはだいたい三百年ほ	市川内匠芝地を開墾し新田を開いた。四屋村、田畑流失につき用水を開削した。	市川用水改修。	いる。 いる。 を かし多摩川の跡が今の府中用水になって なかし多摩川は今よりずっと北側を流れてい							四谷の様子